



「世界を変革する」 市民社会の関与はどの程度 実効性をもっているのか？

2016年9月9日

動く→動かす代表

日本NPOセンター常務理事

今田 克司(いまた かつじ)



2010年、グローバルレベルでの貧困削減アドボカシー&キャンペーンネットワークのGCAPによる国連総会サイドイベントのタイトルは、「The World We Want 2015」

その後、
The World We Want が
国連のポスト2015の
スローガンとして
使われることに

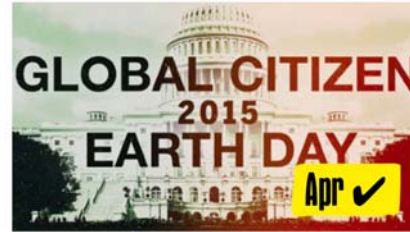




action/2015 launch
15th January 2015



International Women's Day
8th March 2015



Global Citizen 2015 Earth Day
18th April 2015



May Mobilisation
1st – 31st May 2015



G7
7th – 8th June 2015



Financing For Development
13th – 16th July 2015



International Youth Day
12th August 2015



UN General Assembly
15th – 28th September 2015



UN Climate Change Conference
30th November – 11th December 2015

action/2015

2015年の市民社会キャンペーンには開発援助の資金(北欧諸国等)がつき、国連との密接な連携で行われた



action4sd.org

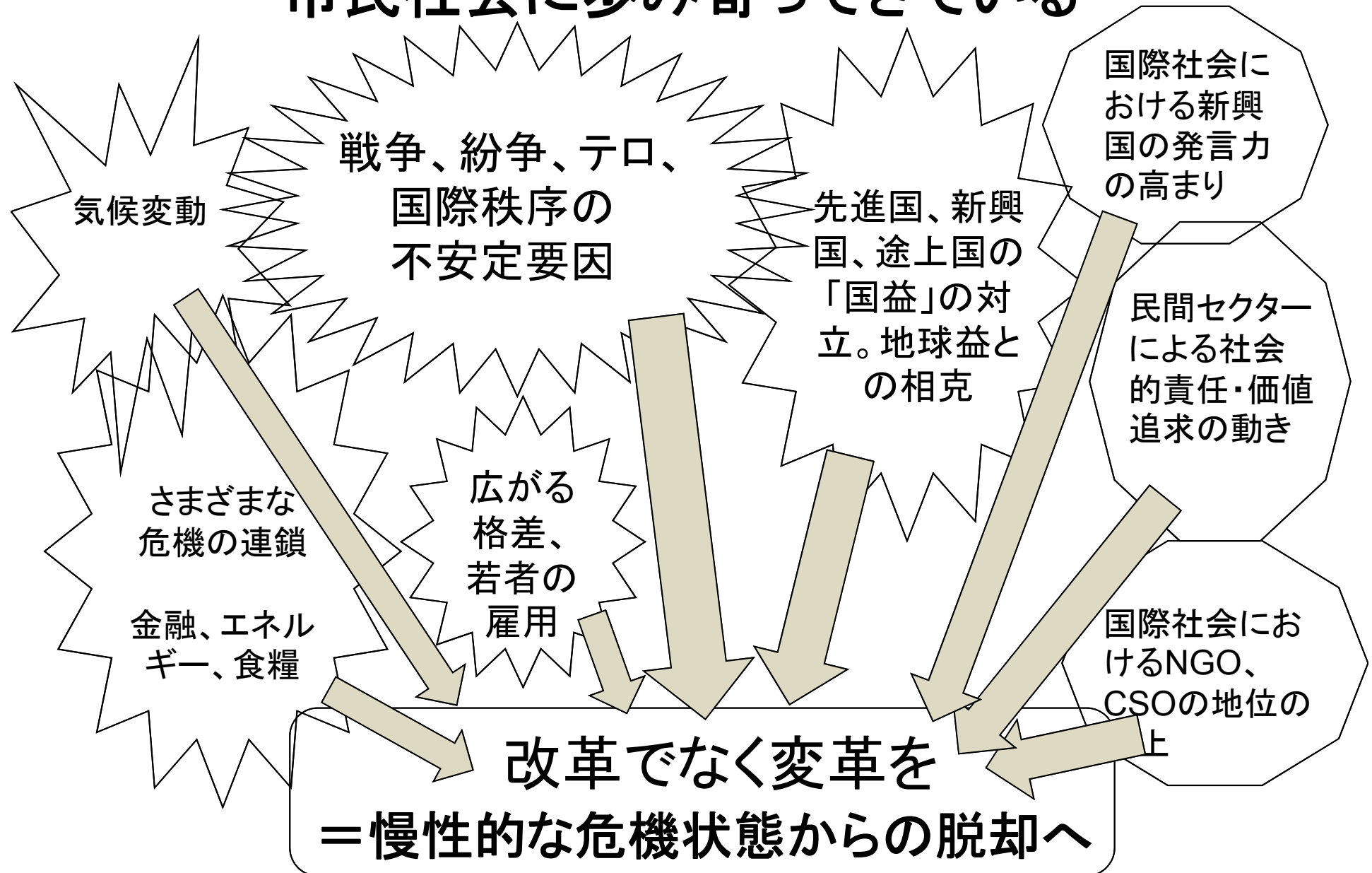
SDGs 実施に関する市民社会のアドボカシー&キャンペーンネットワーク。グローバルレベルでは、ポスト2015で連携した4つのネットワークが設立。国際社会の期待も大きい。
⇒CIVICUS, GCAP, IFP (International Forum of National NGO Platforms), CAN

日本では動く→動かすがフォロー。

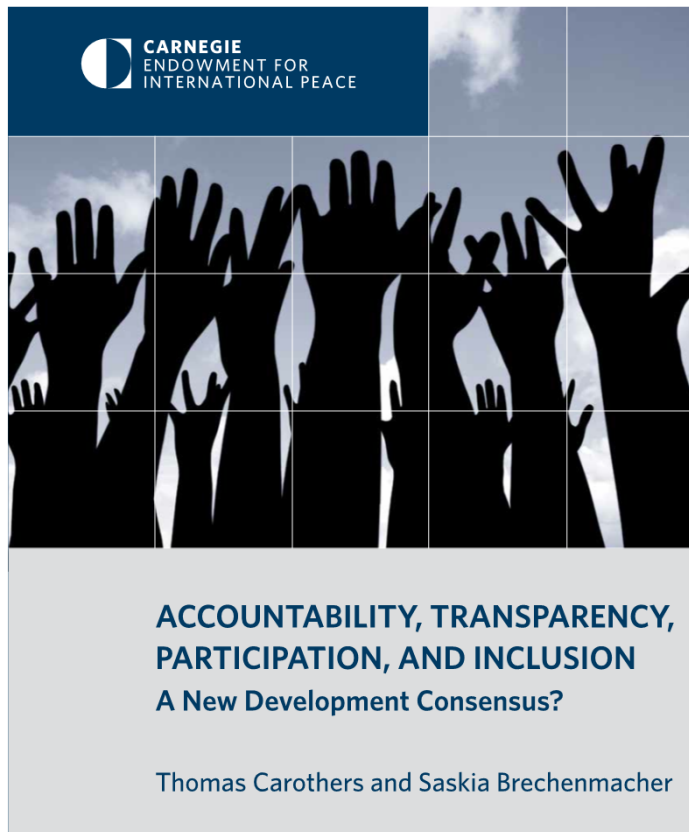
ではグローバル市民社会はSDGsに
おいて政府や国連・国際機関と同
調しているのか？

端的には、「いや決してそうではな
い」

世界観／世界状況の把握においては、国際社会が市民社会に歩み寄ってきている



国際社会の新たな規範形成においても、市民社会の主張が主流化してきている ＝「新たな開発合意」



- 国際開発の新しい規範は、説明責任（アカウンタビリティ）、透明性、参加、包摂（インクルージョン）の4つのキーワード
- これらは各国政府、国際機関、NGO等、いまや開発に携わる様々な主体が共通して重要と認める価値基準となっている一方、「合意」は表面的なものにとどまっている。

しかし「同調」はそこまで...

- SDGsの合意プロセスにおいて、市民社会の主張は一定程度取り入れられたものの、かなり薄められてしまった。
- そもそもSDGsでは「本質」に関わる懸案事項（特に紛争や安全保障に関わる分野）がほとんど取り上げられていない（Goal 16はあるがとても限定的な扱い）。
- 市民社会の多様性を見ると、SDGs交渉に関わったCSOs/NGOsはごく一部
- 今後、市民社会の他セクター（国際機関、政府、企業！）とのエンゲージメントに関しては模索が続く
- 日本では...??